

2019春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス

N o . 1 9

2 0 1 9 年 2 月 1 8 日

日 本 鉄 道 労 働 組 合 連 合 会

貨物鉄産労2019春季生活闘争 要求の趣旨説明

グループの労働条件改善とともに 将来に希望の持てる会社作りが責務

貨物鉄産労は、2月15日、2019春季生活闘争要求の趣旨説明を行った。

その中で組合は、10月の消費税引上げなどを引き合いに、物価上昇、可処分所得の減少を訴え、要求内容の実現を求めた。さらに、2年連続の鉄道事業黒字の確保とともに、利益剰余金を積み重ねてきていることから、ベア原資はあるとの要求根拠を示した。

また、グループ会社の実態への理解を求め、安全安定輸送の観点からも貨物本体から委託金を増額し、労働条件を早急に改善し要員確保に努めるよう求めた。

そして、「会社が人材を選ぶ時代は終わりを告げ、優秀な人材に対して会社が良い労働条件を提示し、入社を促す時代になってきている。会社が待っていても優秀な人材が集まらず、よって会社は衰退していく。大手企業は先を見越して労働条件改善を図っており、将来に希望の持てる会社作りをするのは会社の責務である。また、今後は多くの女性社員が現場に配属されることが予想され、女性が働きやすい環境づくりを早急に整備されたい」との考え方を示した。

これに対し会社は「新人事賃金制度に移行する年度なので、社員のモチベーションアップとなるようにしていきたい」「今後、真摯に交渉を進めていきたい」と応えた。